

【新規 1】リアス海岸に注ぐ岩松川河口域の豪商と共に発展した在郷町

うわじましつしまちよういわまつ

宇和島市津島町岩松伝統的建造物群保存地区

所在地 宇和島市津島町岩松^{わかみや}若宮、岩松新川^{しんかわぎし}岸、岩松上本^{うえほんまち}町一、岩松土居^{どい}ノ奥、岩松浜^{はまだちよう}田町、岩松下本^{しもほんまち}町一、岩松下本^{みなとまち}町二及び岩松港^{みなとまち}町一の全域並びに岩松御^{みゆき}幸、岩松上本^{みなとまち}町二、岩松港^{みなとまち}町二及び岩松港^{みなとまち}町三の各一部

面積 約 10.6 ヘクタール

選定基準 (三) 伝統的建造物群及びその周囲の環境が地域的特色を顕著に示しているもの

宇和島市は愛媛県^{なんよ}南予地方の南寄りに位置し、西は宇和海に面してリアス海岸が続く。津島町岩松は宇和島市の南部、岩松川^{きたなだわん}が北灘湾に流れ込む河口域に所在する。

岩松は、14 世紀中頃には既に農村として存在したと考えられ、室町後期に、岩松川河口の東側にそびえる天^{てん}が森^{もり}に越智通^{おちみちしげ}繁^{きよじよう}が居城を築き、岩松の集落はその麓に形成されたとみられる。慶長^{けいちよう}19 年(1614)以降は宇和島伊達家が治める宇和島藩領となるが、貞享元年(1684)、豪商小西家初代が岩松村に移り住んだことを契機に次第に町場が発展し、江戸後期から近代にかけて豪商を中心として製蠟業や新田・塩田開発、酒造業等で繁栄し、周囲の集落の物資の集積地として栄えた。現在の町割は昭和初期頃に成立した。

保存地区は天が森と岩松川に囲まれた岩松川左岸の範囲である。地区内には、狭隘^{きようあい}な敷地に江戸末期から昭和 40 年代初期までに建てられた伝統的な町家を始めとして、谷筋の農家住宅、寺社、近代の洋風意匠を取り入れた店舗や医院、また近世の地割を残す^{ほわらみぞ}芳原溝等の水路を形成する石垣が一体となって歴史的風致を形成する。主屋は二階建、切妻造平入の^{きりづまづくりひらいり}棧瓦^{さんがわらびき}葺で、正面の^{ひさし}庇^{えようちようこく}を^も絵様彫刻^{おく}等で飾った^{ごうし}持ち送り^{ごうし}で支え、格子を建てて、二階の開口部には^{てすり}手摺^{てすり}を設けるものが多い。二階は全体を座敷として、明治中期頃に改造されたものは^{のぼりばり}登梁^{さおぶちてんじよう}に沿って傾斜した^{さおぶちてんじよう}棹縁^{さおぶちてんじよう}天井^{さおぶちてんじよう}を張る特徴がみられる。

宇和島市津島町岩松伝統的建造物群保存地区は、農村から津島郷^{つしまごう}の物資集散地への変容とともに町並みが形成され、江戸後期から近代にかけて商業を基軸に発展を遂げた在郷町^{ざいごうまち}である。天が森と岩松川に囲まれた狭隘な敷地に、江戸末期から昭和 40 年代にかけて建てられた切妻造平入の^{まちや}町家^{まちや}に加え、土蔵や離れ、農家住宅、近世の^{ちわり}地割^{ちわり}を残す芳原溝等の水路を形成する石垣等の伝統的建造物が残る。これらの伝統的建造物群が、リアス海岸に注ぐ河川及び周囲の急峻な山林と一体となって歴史的風致を良く伝える。



【写真1】切妻造平入で、正面の庇を持ち送りで支える町家が並ぶ



【写真2】岩松川と天が森に挟まれた岩松の町並み
(写真1、写真2共に提供は宇和島市教育委員会)



宇和島市津島町岩松伝統的建造物群保存地区の範囲